

## 2011 年春学期授業アンケートのまとめ

2011 年 11 月 13 日

F D 委員会

2011 年度春学期の授業アンケートは、7 月 11 日～29 日の間に実施されました。その後アンケート結果に対して、各教員からコメントを提出していただきました。以下、これについて分析を行います。

### ( 1 ) 数量的把握

#### 1 アンケート回収率

今回のアンケートの実施状況は以下のとおりです。

表 1 アンケート回収率

|            | 受講者数   | 回答者数   | 回答率   |
|------------|--------|--------|-------|
| 全体         | 20,201 | 11,739 | 58.1% |
| 座学科目       | 14,819 | 7,207  | 48.6% |
| 英語科目       | 2,639  | 2,202  | 83.4% |
| 独語科目       | 53     | 34     | 64.2% |
| 仏語科目       | 43     | 38     | 88.4% |
| 中国語科目      | 705    | 588    | 83.4% |
| 朝鮮語科目      | 291    | 241    | 82.8% |
| 日本語科目      | 147    | 135    | 91.8% |
| コンピュータ実習科目 | 501    | 449    | 89.6% |
| スポーツ実践科目   | 496    | 408    | 82.3% |
| 基礎演習科目     | 471    | 407    | 86.4% |
| 教養演習科目     | 36     | 30     | 83.3% |

座学では依然として、回答率が 50% を割っています。これに対しては、登録者数ではなく、受験者数を母数にすべきではないか、あるいは授業には出ていても回答しないまま帰る学生がいるなどの指摘がありました。

もちろん、そのような斟酌すべき事項はあるでしょうが、回収率が 50% を割っていることが、学生の出席率の低さと一定の関連を有している事実までは否定できません。学生の成績と出席率の相関関係の強さが指摘されているなか、出席率の向上への努力が望まれます。

## 2 各項目の点数

各アンケート項目の点数は表2のとおりです。

残念ながら総合評価の2項目は4点に達していません。また、細目別にみても、3点台が3項目に増えており、前回より若干点数が落ちています。さらに、この間強調してきた授業への予習、復習についても依然として2点台でした。

表2

### 2011年度前期 授業アンケート(全体)

下関市立大学

|      |       |
|------|-------|
| 受講者数 | 20201 |
| 回答者数 | 11739 |

| 学年   |      |      |     |      | 学科   |       |            |      |
|------|------|------|-----|------|------|-------|------------|------|
| 1年   | 2年   | 3年   | 4年  | 無効回答 | 経済学科 | 国際商学科 | 公共マネジメント学科 | 無効回答 |
| 4974 | 3159 | 2545 | 836 | 225  | 5421 | 5247  | 786        | 285  |

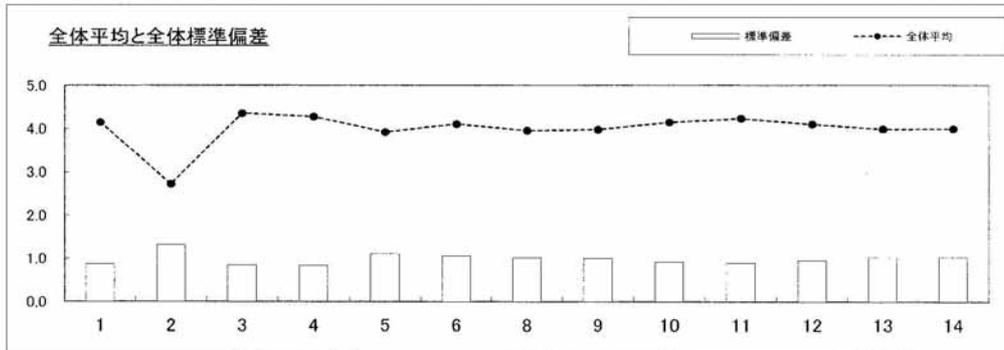
| あなた自身について |                              |          |         |                   |                 |                    |                |                          |       |      |
|-----------|------------------------------|----------|---------|-------------------|-----------------|--------------------|----------------|--------------------------|-------|------|
| 番号        | 設問文                          | 当科目の標準偏差 | 当科目の平均点 | 各マークの回答数          |                 |                    |                |                          | 有効回答  | 無効回答 |
|           |                              |          |         | 5<br>100%<br>そう思う | 4<br>やや<br>そう思う | 3<br>どちらとも<br>いえない | 2<br>あまりそ<br>う | 1<br>45%以下<br>そう<br>思わない |       |      |
| 1         | この授業にはどれくらい出席しましたか。          | 0.87     | 4.15    | 4725              | 4609            | 1929               | 331            | 135                      | 11729 | 10   |
| 2         | この授業に十分に予習あるいは復習をしながら臨みましたか。 | 1.33     | 2.72    | 1214              | 2339            | 3277               | 1745           | 3126                     | 11701 | 38   |

| 授業運営について |  |      |      |      |      |      |     |     |       |    |
|----------|--|------|------|------|------|------|-----|-----|-------|----|
| 3        | この授業の開始時間は守られていましたか。                       | 0.85 | 4.36 | 6398 | 3699 | 1172 | 328 | 127 | 11724 | 15 |
| 4        | この授業は、基本的にシラバス(評価方法を含む)にそって運営されてきましたか。     | 0.83 | 4.28 | 5619 | 4120 | 1685 | 206 | 95  | 11725 | 14 |
| 5        | 板書やビジュアル資料などはわかりやすかったですか。                  | 1.11 | 3.92 | 4427 | 3710 | 2264 | 804 | 502 | 11707 | 32 |
| 6        | 声の大きさ、明瞭さ、速さなどの点で、教員の話し方は聞き取りやすいものでしたか。    | 1.06 | 4.10 | 5389 | 3517 | 1717 | 653 | 383 | 11659 | 80 |
| 7        | 授業内容の難易度について、どのように感じましたか。                  |      |      | 1228 | 3952 | 6130 | 301 | 112 | 11723 | 16 |
| 8        | 学生の反応や受けとめ方などに配慮しながら授業は進められていましたか。         | 1.01 | 3.95 | 4224 | 4007 | 2514 | 690 | 289 | 11724 | 15 |
| 9        | 教科書等を含め授業中に用いられた教材や資料は役に立ちましたか。            | 1.01 | 3.98 | 4312 | 4000 | 2548 | 536 | 325 | 11721 | 18 |
| 10       | 教員は、私語を注意するなど、静かな授業環境を保つための努力をしていましたか。     | 0.92 | 4.14 | 5077 | 3969 | 2124 | 399 | 153 | 11722 | 17 |
| 11       | 授業に対する教員の熱意は感じられましたか。                      | 0.89 | 4.23 | 5575 | 3930 | 1761 | 287 | 171 | 11724 | 15 |
| 12       | 担当教員は質問しやすい雰囲気をつくるとともに、質問や相談は丁寧に対応していましたが。 | 0.96 | 4.10 | 4935 | 3845 | 2275 | 431 | 213 | 11699 | 40 |

| 総合評価について |                                  |      |      |      |      |      |     |     |       |     |
|----------|----------------------------------|------|------|------|------|------|-----|-----|-------|-----|
| 13       | 授業を履修して、この授業科目への関心を深めることができましたか。 | 1.02 | 3.99 | 4323 | 4009 | 2310 | 532 | 364 | 11538 | 201 |
| 14       | 総合的に見てこの授業に満足できましたか。             | 1.03 | 3.99 | 4394 | 3970 | 2238 | 572 | 362 | 11536 | 203 |



## (2) 自由記述

自由記述欄へのコメントをまとめてみると、次のような特徴がみえてきました。特記すべき点をまとめれば、次の4点です。

- 1 学生の多様化、学力格差への対策が急務となっています
- 2 初年次教育の整備が早急に求められています  
具体的には、
  - 学習方法の基礎を育成すること
  - 入門科目を整備すること
  - 初年次学生のケアを意識すること
  - 初年次配置の科目を再編すること
- 3 授業態度の悪化に対する記述が増えています  
出席率だけでなく、遅刻の常態化も問題視する声が多くあります。  
学生のマナー（私語、携帯操作など）と対応力の低下を嘆く声が聞こえています。  
組織的対応と個人的対応、それぞれを分けて整備する必要があります。
- 4 自ら学ぶ姿勢をどう育てるかが重要な課題です  
学生にどのようにして予習復習をさせたらよいかという悩みが多く語られています。

学力格差を中心とした学生の多様化への対応の必要性を強調したコメントが増えました。学生が「決定的に二極分化した」姿が問題となっています。対応が必要です。また、1年生の受講態度の悪さや学力の低さを指摘したコメントも増えています。受講態度では、平気で遅刻する学生が増えたことと、講義中の私語、携帯電話操作、代返などの問題に言及したものが多くなりました。

また、1年生については、「高校4年生」という実感を持った。それに対処する方法を考えたいという声がありました。トータルな初年次教育対策の構築が不可欠のようです。別の機会に論じますが、このことはGPAの経年変化を見ても明らかです。

以下個別の事項ごとにまとめてみます

### 1 自主学習の強化への取り組み

自主学習の不足は今回のアンケートからも明らかですが、この間この点を強調してきたこともあり、それぞれの先生が改善をめざして、さまざまな工夫をされています。小テストを課したり、毎週宿題を出す、指定した予習箇所を翌週の授業初めに書かせるなどの一定の強制力をもった措置を講じることで、ある程度の改善がなされる例が報告されています。もちろん、同じような手段を用いても、改善がみられなかったという正反対の意見も

ありました。

学生が自ら学ぶ姿勢をつけるためにどうしたらよいか、即効薬はありませんが、それぞれの教員が教育方法の改善に努めつつ、その経験を意味ある形で交流する作業を地道に続けるしかないようです。

## 2 講義科目について

### 1) 基本項目について

基礎項目（板書の改善、話すスピード、声の大きさなど）の改善についての意見は少なくなっていますが、それでもある程度は指摘され続けています。板書については、学年によってもその量を変えるべきではないかという意見がありました。また、重要点を強調してほしいという意見が多かったという指摘もありました。

### 2) 出席率の向上をめぐる

#### 過年度生の対策が必要では

出席率については、4年生、過年度生の出席状況が過度に悪いという指摘がありました。もちろん、就職活動との関連もあるでしょうが、それだけが要因ではないでしょう。過年度生の滞留とその学生たちの出席率の悪さを相乗すると、悲観的な結末が予想されます。

#### 小テストの導入と出席率

出席率向上のために2度小テストを行ったが、その時は出席率が上がったが、それ以外の時は改善が見られなかったという経験が示されていました。しかし、これとは逆に、出席率の向上とほぼ同じ率で試験の結果があがっているという声もありました。

#### 出席管理システムの導入

制度に関係するとことでは、出席管理システムの導入を急ぐべきでないかという意見がありました。

#### 授業環境の維持と出席率との関係

これまでもよく議論されることですが、出席管理による出席率の向上と授業の質・教室の静謐維持の課題との矛盾にどう対処するか。両立の課題に取り組む必要性を感じるという悩みが多くの方から表明されていました。

#### 出席確認以外の方法による出席率の向上について

また、受講生数からみて出席を取ることは効率的ではないので、その他の方法で出席率の向上を図りたいという案も出されていました。

#### 登録学生と受講生の割合

ある科目では、定期試験では登録学生の2割が受験していないとの数字が示されていました。

#### 出席3分の2という受験失格条項の周知について

ある非常勤の先生からは、出席が3分の2ないと受験失格になることを知らない学生が

多いが、大学として「周知すべきだ」というご叱責を受けました。

### 3) 受講態度の悪化

遅刻が常態化しているし、授業中に集中力を欠いた学生が多くなった。とくに私語が多いし、携帯電話を操作する学生も増えている、あるいは授業中の出入りも気になるし、授業中に飲食している学生すらいる。ひどい場合には、受講態度を注意するとそれに反発する学生もでてきた。このような、深刻な悩みを吐露する先生が増えてきました。

また、ある非常勤講師の先生からは、「単位お願い文」の伝統があるようだが、「出席率の悪い3,4年生の単位に関しては、受講科目に関係なく大学当局でまとめて面倒をみるべきではないか。このような学生に対しては、一非常勤講師には対応しにくいものがある」という意見がありました。さらに、別の非常勤の先生からは、「悪びれることなく代返し、代返させる学生が多い！」というお叱りを受けました。

こうした学生の態度の悪化に関連してご指摘をうけたのが、教師側の厳しい対応の必要性でした。たとえば、「遅刻2回は欠席1回とする」、「代返者にはペナルティを課す」などの出席管理を厳しくしたことに対して、賛否両論があったが、結果的に極端に遅刻者が減るという効果がでたし、一部の学生からは好評価を受けたということでした。

また、静かな授業環境を作るために、あえてマイクを使わずに授業したところ、効果があったという実践例も報告されています。

さまざまな問題に第一義的に責任があるのは、当然学生自身ですが、指導する側としても放っておくわけにもいきません。現に、まじめな学生からは、私語をしても先生が注意しないなどの不満が上がっています。方法は多様にあるかとおもいますが、まずは学びの基本的な環境作りに、教員が一丸となって取り組む姿勢をもつことが必要なようです。

### 4) 学生の多様化、格差拡大と受講態度の悪化

学生の多様化について多くの悩みが語られたのが、今回のアンケート・コメントの最大の特徴です。「説明がていねいすぎる」という指摘があるかと思えば、まったく逆のコメントがある。また、難易度、分量、スピードについても、同様に正反対の意見が混在している。このような学生の多様化にどう対処するかという点で、多くの先生が悩みを表明されていました。

受講態度の悪さと学生の多様化と結びつけて、「決定的に二極分化した」と表現される先生もおられました（演習科目の文章をぜひご参照ください）。

他方、難しい講義をしたかなと思いつつ答案を見てみたらかなり良くできていて感心したと書かれる先生もおられます。また、履修届は出さないが公務員試験などの学習の参考に自発的に受講させてほしいという学生もいるといううれしい話も紹介されていました。

### 5) 難易度の調整と基本項目の徹底の必要

授業の難易度については、基本用語のより充実した解説の必要性を痛感した、内容が難しいという声が増えたなどのように、基礎的な内容を徹底する必要性を感じておられる先生方が多かったようです。

逆に、授業内容について、「専門性」を上げてほしいというコメントがあり、難易度を上げたが、結果的には効果があったという声もありました。

#### 6) 授業方法の改善

学生が多様化するなかで、それぞれの先生方は独自の方法で授業改善に取り組んでおられます。

少人数講義でのグループ報告、対話型授業の効果、ミニッツ・ペーパーを活用した双方向型授業の効果、講義の最初に前回のまとめをすることの効果、授業資料をウェブからダウンロードする方法が奏功したという経験など、これまでも指摘してきた方法の有効性が今回も指摘されていました。

新しいところでは、大人数の講義で六法全書を持ってくる学生を増やす試みとして、「条文朗読点」という制度を考案して努力されている先生もおられます。

#### 7) 試験の方法

持ちこみ可にしたところかえって勉強しなくなり、成績が悪化したという声がありました。

#### 8) 受講者数の制限

非常勤講師の先生から、受講者人数が多すぎる。400人近いのは問題ではないかという意見をいただきました。また、受講者制限の制度を導入すべきではないかという指摘もありました。

#### 9) 科目再編

「現代経済学入門」について

「4単位化」の希望がありました。経済学への関心を喚起する部分と経済数学入門を2単位のなかに収めることの難しさがあるので、根本的な再検討が必要であるという主張でした。

2年次の法律科目について

2年次の法律科目が「民法」しかなく、実質的に必修科目化している問題性が指摘されていました。

#### 10) 休講補講について

休講補講が多いことへの不満があったことが一部の先生から寄せられていました。

## 11) シラバスについて

シラバスに縛られない自由な授業の方が教育効果が大きいように感じたという意見がありました。

## 3 基礎演習について

基礎演習については、例年以上に深刻な声が聞こえてきます。1年生対策が急務であることがわかります。

### 1) 出席状況

基礎演習でも欠席する学生、遅刻する学生が増えてきたようです。なかには、出席状態への厳格な評価が必要ではないかという意見もありました。「最低限の評価の厳格性が無いと授業に関する統制が緩むことも実際に生じている」という危機感が表明されていました。

### 2) 受講態度の悪化

学習面については、さらに大きな危惧が表明されていました。たとえば、学生の報告中心のゼミだったが、予習してきていない学生が多くなった。班作業に加わらない学生が増大している。関心に沿ったプレゼンを求めたが、インターネット以外では調べてこなかった。感想についての発言で、論理的な思考ができていない。レジュメ等の改善もより具体的に指導する必要があると感じた。このような意見が寄せられていました。

こうした学習態度の前に、寝坊して遅刻しない、テキストは忘れない、レポートの提出期限を守るなどの学生の生活指導を含めた丁寧な指導が必要になってきたようだという声があがっています。

### 3) チューターの活用方法について

また、チューター使う授業をした場合には、チューターと教員の間での指示内容が異なっていて学生が混乱したり、両者の役割分担がうまくいっていないなどの問題点が指摘されていました。

### 4) 授業方法の改善

個人報告とグループ報告を併用することで奏功した事例が報告されていました。

### 5) 通年化の課題

制度については、15回では時間的に限界があるので、基礎演習の通年化が必要ではないかという意見が出されていました。

#### 4 演習科目について（基礎演習以外）

##### 1) 学生の「二極分化」について

一方では、少人数の教養演習では予習してくる学生が多い、最初からモチベーションが高い学生が多くたくさん本を読ませ、自由に議論させることで、大きな教育効果があったという肯定的な評価がなされていましたが、他方では学生の二分化について深刻な危機感が表明されています。重要な内容なので、そのまま引用します。

「勉強意欲、受講態度において、過去に例のないくらい決定的に二極分化した。予習に努め授業時間中にも一生懸命発言し、授業の進行に協力するような学生も多くいて、そういった人たちの評価はありがたかった。一方で、遅刻（数十分程度の）、無断欠席、演習用の小教室にも関わらず私語を繰り返す、お菓子を食べる、注意すると睨みつけてくるといった反社会的な徒党があり、授業を壊さないように管理することで大変苦労した。」

深刻な状況が生じています。みなさんのゼミではいかがでしょうか。

##### 2) 教育方法について

専門演習の海外研修に、教養演習の受講者を参加させて、高い評価を受けたという実践例が報告されています。

#### 5 語学科目について

##### 1) 学生の多様化、格差拡大

学生の学力格差についての悩みは、語学教員のなかで特に大きいようです。学生間の理解度の格差が拡大している。対応に苦慮している。できる学生はもっと早く進んでほしいという要望があるが、他方の側には、それとまったく反対の学生がいる。とくに英語の苦手な過年度生に対してはどのように対処すべきか。7人という少人数クラスに学生の評価が高い。しかし、その7人のなかでも力の差が大きく対処に苦慮している。このような声が寄せられています。

また、クラス間格差もあるようです。たとえば、英語が第一志望と第二志望のクラスでは予習してくる度合いが大きく違うようです。苦手意識を克服するためにDVD教材を使った予習を行うように促したが、それでもうまくいかず、苦労されている姿が報告されています。

また、予習復習する学生の割合が高い、それに比例して授業満足度も高い、学生とのコミュニケーションがうまくとれ、明るく、楽しい授業ができたという好意的な評価を書かれる先生がおられました。それとは逆に、予習をしてこない学生だろうと思われるが、彼らには、授業がわからず、総合点も1, 2をつける結果に終わったようだという厳しい意見がありました。英語以外の語学でも予習、復習をしていない学生が増えていることに対しては強い危惧が表明されています。

ある英語の先生からは、予習を「余りしない」「まったくしない」学生がゼロであったと

いう「改善」がなされたというコメントが出されていました。率直に、「多くが英語を苦手とする学生にどうしたら予習をさせることができるであろうか」と胸の内を書かれる先生もおられました。先生方のご苦労とご努力がうかがえます。

さらに複雑なのは、必ずしもクラスを一元的にとらえてはならないという点です。ある先生は、英語が第二外国語のクラスをもったので、英語が苦手だろうという先入観で教えていたが、そうともいえず、授業のレベルをあげてほしいという要求があったということである。

ここで注意が必要なのは、1年生の格差に対する戸惑いです。1年生の授業態度の差が激しい。躊躇なく欠席する学生と非常にまじめに出席する学生の差があまりにも大きい。このような事態が生じていることをしっかりと認識すべきでしょう。

## 2) 出席状況

遅刻、欠席が多く、ある先生が学生に問い質したところ、「朝 10 時くらいまで起きることができない」と答える学生がいるとのことでした。また、就職活動で頻繁に欠席する学生にどのように対処したらよいかという悩みも表明されていました。高学年で語学を取っている学生の実態を考えると、前述の過年度生の問題と重なってきます。

## 3) 授業方法の改善

授業方法の改善については、積極的な事例が書かれていました。繰り返し同じ視聴覚資料をみせることで効果があがった。英語でディベートを導入したら、非常に好評で、効果もあった。ニュース性のある教材に関心が強かった。「描出話法」を中心に授業を進めたがそれを高く評価してくれる学生コメントがありうれしかった。朝鮮語で、映画・歌・ゲームなどを取り入れた参加型授業を行った結果、教師・学生間だけでなく学生間のコミュニケーションが円滑になった。このような事例が紹介されていました。

逆に、反省点を強調されたものとしては、発音を重視した授業を行ったが、関心を持った学生が必ずしも多くなく、予習復習の点数も低かった、あるいは「役割練習」という方法を取り入れて授業したが、学生からは批判も出されたというコメントがありました。

## 4) プレイメントの効果めぐって

プレイメントテストで分けたクラスの習熟度を前提にしてテキストを選び、かつクラス規模も少なかったので、良い授業ができたという声がありました。

他方、プレイメントの各層の幅が大きすぎて、学生の習熟度の格差も大きくなるし、結果的にクラス規模が大きくなりすぎ、逆に効果がでていないという問題点が指摘されています。

## 5) 小テストの効果

小テストを毎行ったが、大変だという意見はあるものの、「よく勉強できた」という評価もあるので、今後とも続けたいというコメントが記されていました。

## 6 実習系科目について

ここでも、授業に関係のない私語が多かったという意見がありました。また、実習の場合は、グラウンドや施設などの充実が前提であるが、この面での問題がある現状にどう対応したらよいかという模索のコメントがありました。また、ある先生からはシラバスに即して授業を進めたいという改善の意志が示されていました。

## 7 施設の改善について

視聴覚機器の充実やエアコンの調整に対する要望が例年通り多かったのですが、これについての事務局からの回答、および教務関係の意見についての回答は資料1のとおりです。

### 資料1

#### 設備コメントに対しての担当部署からの回答(教務)

##### 教室機器について

教室の設備に関しては、リース物件のため、アンケート意見を参考に、来年度以降の更新をしたいと思います。教室機器の不具合については、機器自体の故障は緊急修理をしています。

これ以外に、マニュアルの見直しなども実施していきます。111教室については、一部黒板が見えにくい場所があるようですので、教卓の移動も検討しています。ただし、教卓にはAV機器ケーブルなどが配線されているため、すべての席の状況を改善することは難しい状況です。先生方に黒板の使い方を工夫していただくなど、できる限りの対応をお願いしていきます。

##### 教室定員について

教室と授業科目のマッチングですが、教務で履修登録者数を見ながら、慎重に配置をしています。どうしても教室が足りない曜日時限が出てきます。今後は、教室定員にあわせて受講者数の制限をする方法も含め、検討していきます。

##### 補講・補講期間について

5限・6限の補講については、15回授業の確保に伴い学年暦を見直した際に導入したものです。当然、休講や補講がない状態が望ましいのですが、気象状況や先生方の事情もあり、休講となる場合もあります。その場合は、15回授業確保のため、補講が必要となっています。翌週の5・6限または土曜日の実施となりますが、授業内容に関わることで、出席を心がけてください。また、補講の実施とは別に、補講期間の復活を求める声が多くありました。これは定期試験前に勉強期間を確保したいという意見のように思われました。これに関しては、補講期間を設けることが難しいため、試験の日程発表を現行の「試験前1

週間」から数日～1週間程度は早く掲示するようしたいと思います。

設備コメントに対しての担当部署からの回答(庶務)

A棟のトイレについて

9月22日に工事を完了し、新学期より全館使用できるようになっています。

空調について

A棟については昨年度から各教室でON・OFF、温度調整可能となっています。適切な温度設定をお願いします。 B棟については原則 26<sup>0</sup>Cに設定しています。

設備コメントに対しての担当部署からの回答(経営企画)

コンピュータ実習室の鍵開けについて

鍵が9時に聞いていないことがあり、利用者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。今後は教室を早めに聞けるように努めたいと思います。

OS、Officeのバージョンが古い意見について

今年度秋学期より、コンピュータ実習室の機器更新を行いました。それに伴い、OSはWindows7、Officeのバージョンは2010へとバージョンアップしました。